

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

25番牟田議員の質問を許可します。御登壇を求めます。25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきました。私の一般質問を開始させていただきます。

きょうは6月9日、ちょうど2カ月前、4月9日選挙がありました。選挙の告示日でありました。その選挙、終わって始まってもう2カ月、選挙期間、励みになります、励まされます、励ましてください、はげはげ言うなというぐらい励まされました。今度は我々が、新市長が、そして我々新議員が市民を励ます番であります。くしくも、きょうからサッカーのワールドカップが始まっております。この新議会、新執行部、途中、臨時議会、そして6月議会の開会等ありましたが、本格的にはきょうからスタートだと思っております。

私自身も、過去休むことなく一般質問をさせていただきました。新市になりましていろいろ聞きたいことは山ほどありますけれども、何を聞こうかと考えたところ、今まで質問してきました一番多かった周辺部対策、そして防犯、そして財政、行革、これを今回の質問に持ってまいりました。

市長のブログ等を読ませていただきますと、映画もお好きなように、その中の映画の一つなんですけれども、ビスコンティ監督の「山猫」という映画があります。その映画のせりふの中で「我々が生き残るためには変わらなければならない」というせりふが、その「山猫」という映画の中にあります。まさにこの武雄市も今現在本当に曲がり角、待たなしたと私自身も認識しております。

そういう中、指導者が果たす役割は一步先、二歩先、三歩先、そして10年後、20年後を見据えて施策を打ち出し、それを実行し、市民に光を与えるものだと思っております。樋渡市長は多くの具約を打ち出されております。大変期待するものであり、実現を楽しみにしております。

つらつらちょっと長くはなりましたけれども、最初の質問、先ほど三つの質問のうちの一つで、防犯という観点から質問をしていきたいと思っております。

旧武雄の議会のとて、これはもう四、五年前から訴え続けてまいりました。もはやもう安全というのはただではない。昔は水はただだったと、今は水は高いと。先ほど平野議員もおっしゃっていたように、これはもう安心・安全というの、ひょっとするともうただで享受できるではない、もちろん税金という代償を払っておりますけれども。反対に、むしろきちんと防犯対策、そして安心・安全、子供の安全をきちんと確保しておければ、この武雄市もそれが吸引力となるかもしれない。あそこは安全かばい、あそこはよかばいと言われるかもしれない。そういうのも含まれております。

今テレビをつけると、秋田の小学生殺人事件、大変話題となっております。そして、きのうは池田小学校の5周年　5周年という言葉はおかしいですね、5年が過ぎていろんな喪に服されたという話も聞いております。いろんな話題の中、多分これが今の国民、市民にとって一番多い話題ではないでしょうか。確かに、先ほどおっしゃった、平野議員とか質問された水道料金とかもあるでしょう、学童保育もあるでしょう、一番でも今現在関心があるのは命、その子供の安心・安全を守っていくことじゃないかと思っております。これは市民にとっても緊急のニーズだと思っております。

新年度予算が今度我々に示されました。防犯予算を見てみますと、単に旧武雄市、山内町、北方町、この防犯予算を足しただけというふうな形だと思っております。10年前に比べ、この武雄市は犯罪の発生率は倍になっております。つまり、その市民ニーズに対応していかなければならない。テレビの向こう側であっているのが、いつここで起きてもおかしくない。現に、去年も旧武雄市で2件、3件ありましたね、学童相手の事件が。本当にこれは市民の安心・安全というのは緊急のニーズだと私自身も認識しており、この質問で取り上げております。この質問どころか、もう何年も前からこれは訴え続けていることであります。

もちろん、この6月議会以降、さまざまな新市長による肉づけ、そして、例えばお金がかからないような効果があるような案が出てくるとは思いますけれども、今現在でどのような市民の、そして子供を守る防犯対策は考えられているのか、これをまず第1点目としてお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、市の方といたしましては、先ほど議員おっしゃいましたように、防犯の予算として今回800千円を計上させていただいております。そのほか、いろんな子供たちのための防犯活動といたしましては、防犯パトロール、これは各小・中学校でも行っていただいておりますし、子供の下校時の立哨とか企業防犯パトロール車運行、こういったことで地域と一体となりながら子供の安全の確保に努めているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今までと同じような答弁だったんですけども、例えば防犯グッズ、いろいろありますよね。それはもう毎年倍々ゲームで売れていると。やっぱりニーズがあるわけですね。ひょっとすると、この武雄市の市民の方々もそういうのを購入した方もいらっしゃるやもしれません。そういうふうなことであります。富士総合研究所の調査では、1万数千人にアンケート

をとって、その中の約9割が、自治体の防犯対策は十分ではなくもっと強化すべきというのが9割、アンケートをとったら。そして、その9割の中の7割がもっとお金と人と知恵を投入すべきであるというふうに答えた。

そういうふうな中、いろんな予算もかかるかもしれない、市長がよくおっしゃったスクラップ・アンド・ビルドの中で、多分これはビルドの方に入るんじゃないかというふうに思っております。

そういう中、本当に地域の安心を守るためにはどうすればいいのか。例えば一つは、私は中山間地、周辺部の人間であります。周辺部の人間、そしてぶっちゃけて言えば若木町の人間ですね。山間地の子供たち、どうやっているのかと。子供が少なくなって、もうおじいちゃん、おばあちゃん、お母さんが途中まで送り迎えされているんですね。もう何キロも防犯灯がないところを、人けがないところを歩いてこなきゃいけない。そして、帰るときも迎えに行かなきゃいけない。そのおじいちゃん、おばあちゃん、元気なうちはいいですよ、お母さん働いていないうちはいいですよ、ところがそうも言っていられない時期がすぐにやってくる。何とか対処しなければいけない、もう既にそういう時期になっています。

例えばその解決策として、先ほど話も出てきたスクールバスというのもあると思います。スクールバス自体を市で運営するのは大変厳しいかもしれない。厳しいかもしれないけれども、市は合併して車がいっぱいになりました。例えば、マイクロバスも今まで市が2台所有したのが合併して何台かふえた。ワゴン車も合併して何台かふえている。そういうのを活用して、スクールバスもしくは高齢者の方も使えるようなそういうふうな巡回、一般の方も使えるような、ちょっとこれはそこまで飛び過ぎかもしれませんが、そういうふうな策はできないものか。

今あるやつを活用する。そして、例えば職員に二種免許を取っていただき、それで活用していただく。そうすると、今あるものを活用するという形で、ひどくはお金がかからないかもしれない。そして、もしそのバスとかが必要なときは、そのときこそよそからレンタルして使えばいいんじゃないかと思えますけれども、そういうふうな一つの案としてスクールバスという言葉を使いました。そういうふうな対策はどのようにとられているのか、考えがあるのかお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

防犯面でございますので、市長である私から答えさせていただきます。

選挙期間中の話が出ました。私も、地区は申し上げませんが、田んぼの中ば歩きよったぎ、やっぱり小学生の低学年の子が1人で帰っていきよる、夕方です。非常に不安感を覚えた。これは議員と全く同じゅうするところだと思います。

スクールバスのお話が出ました。私は、できない理由よりできる理由を考えたいと思います。その上で、先ほどありました余剰の車についてはこれから調査を始めなきゃいけないけれども、それをスクールバスに転用できるということであれば、私はやりたいというふうに思っております。

しかし、そのときに条件があります。運転手さんの問題が先ほど議員から出ました。これを本当に職員がやっていいのか。私は、できれば地元の皆さん、あるいは保護者の皆さんにやっていただきたいというふうに思っております。必要経費についても地区、あるいは保護者の皆さん等々の負担、あるいは関係者の皆さんの協力体制はあろうかと思えます。そういった条件をクリアできるのであれば、私はやりたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

毎日、新聞、テレビ等では子供たちの命が粗末になっていく、これを私たち毎日毎日肌で感じるこのごろでございます。先ほど牟田議員の方からお話がありましたように、子供たちの数が減っていくこの現状というもの、これは受けとめなきゃならない。しかし、それを私たち大人がどう守っていくか、これは私たち大人の責務であるわけでございます。

先ほど市長の方からもお話がありましたように、私ども教育委員会といたしましても、市長が申されたようなことがクリアできれば、ぜひそれが実現に結びつけていけたらなど、そういうふうに思っています。

しかし、子供の安全を守るという視点から考えますと、毎日毎日起こるこのような社会現象の中で、市民の皆様方一人一人の子供の安全・安心を守っていく日常活動というものが、制度を実現するまでも決して忘れてはならないものでございます。

これまでもいろいろな市民の皆さん方の自主的な防犯パトロール等を行ってもらっておりますが、これも一層続けていく、強化していくということで市民の皆さん方の御協力をよろしくお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長、教育長と答弁をいただきました。

職員に免許というのは一つの案であって、そうしてくださいというわけじゃない。ただ、それが一番お金がかからないんじゃないかという意味で申し上げたままで、例えばいろんな案があると思います。例えばタクシー、タクシー会社、そこから出向してきてもらうということもできると思いますし、今さっき市長がおっしゃったような事例は、実際、例えば日田市、そして北広島市、そして東北の方も多数、保護者に車を貸与し経費を持ち、そして保護

者認可のもとされているという事業も実際ございます。ぜひ前向きに考えていただきたいと思えます。

同じく防犯の面でもう1点。防犯のことを何回もこの壇上で質問してきた、そして今も質問していると。そして、勉強もさせてもらいますし情報も探っていると。でも、やっぱりプロにはかなわんわけですね。プロというのは警官です。やっぱり一生懸命考えて、こういうのはどうかと、例えば知り合いの警官に尋ねると、ここはこうですよ的確なアドバイスをしていただく。他自治体では警察官から、警察から市に出向されて、防犯面、安心・安全面を高められている自治体もございます。やっぱりそういうプロの話を、そしてプロの政策を反映するというのは、この武雄市民の安心・安全にとっては物すごくプラスになると思えます。

ただ一つだけ、今の時期からやっておかないと警察の方も人事の関係でなかなか動きづらいというのも聞いております。ぜひそういうふうな警察からの出向という形が求められるものか、これを次の質問でお伺いしたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

警察官の出向につきましては、私は半分賛成、半分反対でございます。それはどういうことかと申し上げますと、これはやっぱり人ですね。例えば、私は市町村の事例はつまびらかには知りませんが、東京都が副知事として現役の警察官僚が来られた。その結果、歌舞伎町の防犯対策、暴力団対策が一気に進んだという事例があります。これは、しかるべきところにしかるべき人が来たという極めて幸運なケースだと思います。単に警察官だからと

私は否定するわけじゃありませんけれども、そういった方々がいらっしゃる、それがしかるべきポストということであれば、私はでき得るというふうに思っております。しかし、半分の反対の部分については、私は今のところは、私も警察署長さんとはトップ同士で連絡をとる立場にあります。県警本部とも連絡をとる立場にあります。トップとしてそういう認識を持ちながら、今のところは私は連携体制をまず築くことが大事ではなからうかというふうに現時点では認識をしております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど言いましたやっぱりプロの意見を聞かなきゃいけない、それで連携を深めていく、そういう方向でもよろしいです。そうやって、私は欲を言えば防犯の先進地になっていただきたい、この武雄市が。市長も海外旅行よく行かれるということなんですけれども、海外旅

行 いやいや昔ですよ、行かれていたということだったので。外務省はこういう発表をしているんですね、あそこの観光地は今危険度幾つですよとか、観光客に向けてそういう発信をされているわけですね。観光客は例えば自分一人ならまあいいかと行ったり、家族と一緒にだったら安全なところに行こうとか、きちんとそういうふうな情報発信をしている。反対に、武雄市が物すごくそういうふうな、何というんですか、安全の面に関して先進地であれば、やっぱり浴衣でまちを歩ける温泉地、安心して安全で来られると。そして何よりも市民の安全が一番守られている。ぜひ、そういうふうなこの市民の安全というやつをもう全国でもトップクラスに上げていきたい。

実際、佐賀県自体は他の県に比べたら治安に関してはいい方。その中でも1番といたら、佐賀県で1番ということは日本で1番ぐらいなれる可能性がある。やっぱりそういうのも一つのPR方法じゃないか。そして、PRというのを抜きにしても、市民にとっては安心して住める、武雄は安全ですよというふうなPRをできるということだと思います。ぜひそういうふうないろんな知恵、そして協力を仰ぎながら、この武雄市、安心・安全と、本当に武雄市は安全ばいとよそから言われるような、そういうふうなまちづくりを目指していただきたいことをお願いしまして、次の質問に移らせていただきます。

これは、私がもう本当質問でいつもいつもやっている周辺部対策であります。人口減対策であります。今までは少子化対策という言葉を使ってまいりました。もう今度から人口減対策という言葉に変えていきたいと思っております。

私の出身、先ほど壇上でも言いました、皆さん知っていると思います、若木町です。若木で去年生まれた子供、若木町で去年生まれた子供の数はたった6人。たったという言葉を使っていいのか悪いのかもしれませんが。本当に宝のような6人、町で6人ですよ。6年後には6人の入学式が待っている、何の手もつけなければ。さらにその6年後、6人の学級が6学年、六六、三十六、クラス何人ですか、今学校何人ですか、36人、うんにゃクラスの数じゃなし全体で幾らですか、いんにゃ36人と。そんなくらい間違えられととですよ。もう学級の数なのか、学校の。だから、私はもう武雄市もそうだと思いますけれども、我々周辺部の人間、本当に待ったなしだと思います。今変えなければ、もう6年後にはそういうふうな事態になっている。こういうのはすぐにあらわれる特效薬はないから、1年ごとに積み重ねていかなければならない。

今まで私自身、質問のスタンスはあくまで周辺部という言葉を使ってきました、今まで。これは議事録見ていただけるとわかると思います、周辺部という言葉を使ってきました。今度から若木町という言葉を使わせていただきます。今まで周辺部という言葉を使ってきましたけれども、若木町という固有名詞で言わせてください。それくらい待ったなし。八幡岳の懐の、その町が危機に瀕している。

奈良県の黒滝村ですか、人口2,000人ちょっと切るぐらい。去年生まれた子供はたった1人、

5年前までは10数人生まれていた、20人近く生まれる。それが去年1人、ことしはまだ生まれるめどもたっていない。それはわからんですよ、12カ月ああけんが、という話らしいです。それと同じようになる可能性が大。だから、本当に待ったなしだと。だから、若木町という言葉を使わせていただいております。

本当に今すぐにでも動かなければ、我がふるさとどうなるか、本当に行き先が心配であります。私が考えるに、多分市長も具約の中書いていらっしゃるしやいます、何とか解決するためにはどういふのがあるだろう、特効薬はなかなかない。例えば、一に雇用、二に住宅政策、三、四がなくて五に周辺部の優遇政策、これぐらいしかないと思います、私が考えたのはですね。市長の具約の中でも、4の定住促進特区、そういうのもうたわれております。ぜひ実現していただきたい。6の空き家対策、これもぜひやっていただきたい。実際こうやって考えられていらっしゃると思います。

これも一つの考え方なんですけれども、伊万里に今度SUMCOという何千億円もかけて何千人も雇用する施設が参ります。じゃあ何千人も雇用して、じゃあ住宅政策は伊万里はどうするのかと。多分、推測ではございますけれども、伊万里市さんもSUMCOを呼ぶことで力を結構注がれると思いますので、住宅政策まではなかなか回らないかもしれない。そういうときに、498が通っているお隣のこの武雄市、その住宅も準備できていますよと、こっちに住んでくださいといふのできるやもしれない。だから、そういうのを考えて実行していただきたいといふのがあります。また、市長が常々おっしゃっている企業誘致、企業誘致もぜひやっていただきたいと思っております。

この問題、非常に難しい問題だと思っておりますけれども、さらにその企業誘致により市外に出る人たち、町外へ出る人たちも防ぐことができる。この周辺部対策、先ほど言いました武雄市も待ったなしですけれども、若木町も待ったなしと、そういう周辺部対策、どのようにお考えなのか、まず第一にお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

非常に難しい質問の一つだといふふうにまず認識をしております。周辺部対策につきましては、これ全国の事例をつまびらかに私も一生懸命調べてみました。その結果、効果が本当に上がっているといふのは1割未満であります。それほど全国の皆さんが必死に考えても難しいといふことの前提の中、私は先ほど申したとおり、直接に住んでいただくといふことはちょっとこれは難しい。したがって、公営住宅を若木に建てるとかといふのは基本的にはこれは考えられない。しかし、そこに住んでいただくように誘引するようなことは、私は積極的にやっていきたいといふふうに思っております。

議員が先ほどおっしゃられた私の具約の中にも、帰ってきんさった奨励補助金等々があります。これにつきましては、人口がすこぶる減少している部分等々の条件を設けて、そこに誘導していくような政策的なツールを考えていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

公営住宅はなかなか難しいと。かつて、これもこの議会で何度も紹介させていただきました。塩田町が分譲住宅をされた時。そのときに、この武雄市からは27世帯が塩田町の方、そちらの分譲住宅の方に流れていった。もう結構前の、前というか数年前の話です。まだまだ何というんですか、事例が当てはまるかどうかわかりませんが、そういう事例も多々あります。公営住宅というのは無理かもしれませんが、ぜひそういうふうな分譲地、そして、例えば工業団地等々来た際には、そういうものの受け皿をぜひつくっていただきたいことをお願いしたいと思います。

そしてまた周辺部、周辺部というのは、今人口の面を言いました。活力ということで言いますと、そこで営まれている商業というのもあります、商売人もいらっしゃいます。これも何度もここで言いましたことですが、例えば中心市街地、ハザード事業云々でいろんな予算がつけられている。それと同じくとは言わないまでも、周辺部に対する事業をされている方々、頑張っている方々に、そういうふうな何らかの手法がとられないものか。

例えば市長の出身地の朝日町高橋地区、私子供のころ行ってましたけれども、結構まちだなと思っておりました、もう30数年前ですけれども。今はなかなか空き家もふえて、活気というのが見れないやもしれません。そういうふうに、周辺部が商業の面でも何らかの優遇策、優遇メリットができないものか。

我々から中心市街地を見ると、ああよかなと。それは中心地は中心地のいろんな悩みがあると思います。同じ商業をしている人間として、そういうふうに逆に周辺部で商売するメリットとか、そういう優遇策はとれないものか、これが第1点。

もう1点は、先ほどに続きますけれども、もう1点は何とか周辺部に住むメリットというやつを見出せないものか。これはさっきの商業と住むという住の方ですね、住むことによるメリット、格差をつけて周辺部に人を流すことができないだろうかと、こういうふうな施策はないものだろうか、この2点、何らかの方法があれば、もしくは考えがあればお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。



まず、周辺部の商業者への支援というふうにありました。商業者の支援というのは、これは資本主義社会である限りは基本的にはあり得ないというふうに認識をしております。商業者は自立がまず第一だというふうに認識をしております。さすれば、なぜ中心市街地で商店の皆さんへ支援をするか。これは一つの列、あるいは面になっているからその面が公共的なものということで支援をしているものであります。

そういった観点から、私はこのように考えております。周辺部で商業者に対する支援ということは、私はこれは決して否定するものではありません。しかし、その場合に公共的な側面を担う、すなわちインターネットであったりとか、あるいは実際に固まりがないとなかなか支援はしづらい。これが私の基本的な認識であります。

2点目の、周辺部に移り住むことのメリットについては、これにつきましては全国の自治体、これ特に東北地方でありますけれども、非常に自治体が頑張って、頑張らない宣言を出したりとか、非常にそれが自治体が、これは県も一緒になってやらんとだめでしょうけれども、そういった魅力等々を情報発信をうまくやっております。これは私も見習って、情報発信についてはきちんと力を入れていきたいというふうに思っております。

最後に、政策ツールといたしましては、帰ってきんさった補助金、あるいは周辺部で頑張っておられるNPOの皆さん等々に支援を一定して、そこに定住ができるような誘引については図っていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそういう施策を、スピードが身上である市長でありますんで、急ぎやっていただきたいと思います。

周辺部対策の一つで、もう一つは空き家対策ですね。先ほど市長がちょっと触れられました。

若木町には空き家に入る、空き家を調査して紹介するNPOがございます。そういう中、例えばこの若木町だけでも10軒、10数軒の空き家がございます。そういう空き家の中で、うちの町だけ500世帯の中でそれだけある。じゃあ、新市の全体としてはどれくらいあるだろうと、大きな数だと思います。これを何とか対策していくのも必要だと思います。

例えば、空き家のまんまでいればそこが荒れて、いろいろな犯罪の温床になるかもしれない。反対に、それを利用して、来ていただきたいというふうなこともできるかもしれない。一つの例ですけれども、うちの本当真ん前の家があるんですよ。私の住んでいる真ん前、真ん前の空き家がある業者さんが買い上げて、リフォームして出したと。そしたら、ヤフーのトップページになったんですね。ヤフーというのはもちろん全国、全国というか世界の人が見られる。そのヤフーのトップ、トピックスにもなる。うちの前は1時間に人が1人歩けば

いい方なんですけれども、そのときは1時間に車が100台ぐらい来ちゃって、やっぱりこれは宣伝効果かなと。まさに市長がホームページに力を入れて全国に発信する、これは物すごい効果だなと思っております。その空き家対策にしても、例えばホームページで発信するとか。そして、空き家対策でそうやってやっていらっしゃるNPO、NPO自体でなかなか難しいところもあられるらしいんですよ。例えば、そこの持ち主が今どちらに住んでいらっしゃるのかとか、今そこの所有権はどちらになっているか、もし所有者さえわかれば、そこに話をつけて、こういうふうにして売りたいとか買いたいとかという間をとることができるけど、なかなかそれも難しいんじゃないかと。

ぜひ行政の協力、行政とのタイアップで、そして先ほどホームページの話しました。そういうので発信していただきたい。反対に、それを発信することで武雄市のアクセスがどんどんふえて、その他の面まで見ていただけるかもしれない。だから、そういうふうなことをぜひ活用してやっていただきたいんですけども、その点はいかがお考えでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

空き家対策については大枠で二つを考えております。一つは、単に空き家があるからといって、支援というのはなかなかこれは市民合意、議会合意がとれないなというふうに、これは率直思っております。しかし、私は選挙期間中、山内の黒髪の方に参りました。そのときには見事な古民家が群をなしてあった。しかし、そこに住んでおられる方がいない、荒れ果てている。せっかく観光資源、あるいはコミュニティーの中核になる部分が非常にそれで損なわれている。したがって、私は一定の条件、広域的な観点、経済的な観点、観光的な観点等々から、これは投資するメリットがあるんだというものについては、私はその観点から空き家対策はしていきたいというふうに考えております。具体的な方法についてはまたいろいろ教えていただいて、これから考えていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

空き家対策のNPOの方から言わすと、ニーズは物すごくあると、問い合わせは多々あると。問い合わせはいっぱいあるんだけど、それを用意するだけの物件がないと。物件がないというのは、物件はあるけど、古民家改造していいよという所有者とのなかなかコンセンサスというのか連絡がとりにくいというところがあるんで、ニーズはあるということなんです。ぜひ、そういうところも踏まえて施策に反映していただければ幸いですと思っております。

この周辺部人口対策、問題はいろいろあると思います。繰り返しになりますけれども、うちの町も待たなしです。何とか行政の力をかりて、そして市長の、そして議員、議会の皆様方の知恵を拝借したいと思っておりますし、何とかやっていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

では、最後の財政でございます。

財政に関しましては、始まったばかりで中期財政計画、長期財政計画もまだ出ていない状況でございます。その中で、これはもう言わずともですけれども、自主財源の確保というのが、これはもうとりもなおさず一番の大切な課題ではないでしょうか。

自主財源の確保、今まではひょっとすると、例えば企業を呼んできた。企業を呼んできて、例えばそこから固定資産税が3億入ってきた。ああ、3億入ってきたからよかったなと思ったら、今度は交付税がその分減らされた。そういうことがあります。ただ、今の時代どうなっているのか、来ても来なくても減らされていくと。10年後からはさらに減らされていく。10年後を見据えた場合、15年後を見据えた場合は、これはもう自主財源の確保しかこの武雄市が生き残る道はないんじゃないかと、この財政の面では思っております。それを何とかクリアするためには、市長が常々おっしゃっている企業誘致、そして観光客の誘致、そして学校等の誘致、そして新幹線の誘致、これに尽きるんじゃないかと思っております。ぜひ、そういうふうな誘致、市長の決意をお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

自主財源の確保については、私も政策的に最も大事なものであるというふうに思っております。

私もさまざまな施策を展開したい。前の御質問で平野議員からも御質問がありました。いろんな子育て対策、これも私も認識は同じゅうするものであります。しかし、財源なきところに裏づけがありませんので、まず東奔西走して自主財源を何とか確保したい。その上で、ぜひ私の方もお願いをしたいのは、自主財源が確保できるような政策を議会の側からもぜひ提言をしていただきたいというふうに考えております。その上で、私はトップセールス等々については命をかけてやっていきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ、もう決意のほど聞かせていただきましたけれども、我々もできるだけ協力し、力になって自主財源の確保、本当に自主財源がなければ何もできないと思うんですよ、おっしゃ

るように。我々は、例えばこの議会で何々してください、さっきも言いました、くださいくださいと言っていますけれども、やっぱりあわせてこういうふうな自主財源のつくり方をやっていったらどうだろうかという提言もしていかなきゃいけないと思っておりますし、これからそれに向けてさらなる勉強をしていかなきゃいけないと思っております。ただ、やってくれただけではだめだと思えます。そして、その自主財源の確保と右手で自主財源の確保をしながら、左手で行革を行わなければいけないとも思っております。

市長の具約の中にアウトソーシング、できるだけアウトソーシングをしていきたいということを書いてあります。これはもう何度もこの議会でも繰り返しになりますけど言っています。民間委託、PFI、NPOの委託、いろんなことが考えられると思えます。これからいろんなそのアウトソーシングをやっているかと思えますけれども、例えば、これから先、図書館、指定管理者制度というのもできております。図書館、例えば大きく言えば水道事業もそうかもしれません、既に全国の自治体でも水道事業をPFIで出している自治体も数多くあります。

例えば、その行革の中でアウトソーシングに入るかもしれませんが、例えば商工観光課、商工の方は商工会議所があると、そっちの方とタイアップして何とかできないものか。観光課、観光協会がございます、そことタイアップしてできないものか。いろんなアウトソーシングがあると思えます。ぜひ、そういうふうな右手で自主財源の確保、左手でアウトソーシング、これを何とかやっていただき、欲を言えば、先ほど言った周辺部対策にちょっと力をかしていただければ幸いです。ぜひこれからの武雄市、楽しみにしておりますので、我々も協力したいと思います。武雄市がやっぱり輝ける武雄市という意味でも、我々は常に提言していかなければならないんだと思えます。そして、執行部側もいろんな提言を受け入れていただいて、何とか市民の福祉の向上に役立てていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で25番牟田議員の質問を終了させていただきます。

次に、30番谷口議員の質問を許可します。御登壇を求めます。30番谷口議員